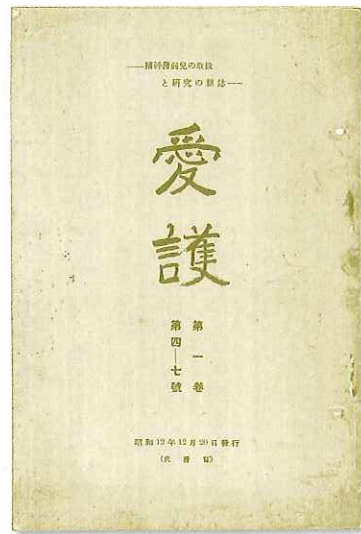


愛護

1936年9月
 ▼
 1963年5月
 全4巻+別冊1

復刻版

近現代の知的障害者福祉の歩みを
 証言する貴重な資料！



第1巻第4-7号(1937年12月)

日本精神薄弱児愛護協会の
 (現・日本知的障害者福祉協会) 機関誌

摘定価 ● 本体六〇、〇〇〇円十税
 解説 ● 蒲生俊宏(日本社会事業大学助教授)

創刊70周年記念出版！

昭和29年9月号

愛護

将来の施設に望む

川田貞治郎

今日我が国に施行されている児童福祉法は、精神薄弱児も一概に生活までが生理的障害二十才までとされて見られるのであり、其の年令的変化の困難を伴うので、大いにこの時期に於ける教育の重要性を認識する必要があります。この三才迄を以て教育の重点を置くべきである。この三才迄を以て教育の重点を置くべきである。この三才迄を以て教育の重点を置くべきである。

精神薄弱児施設収容中の
 年令超過者の実態調査

年令超過者区分	昭和25年		昭和28年		実数(1)に対する%
	人員	(1)に対する%	人員	(1)に対する%	
満18-20才未満	23	1.5	104	6.9	127
20才以上	9	0.6	22	1.5	31
計	32	2.1	126	8.3	158
満18-20才未満	64	3.0	175	9.7	229
20才以上	19	1.1	27	1.6	46
計	82	4.0	202	11.2	275
満18-20才未満	82	3.7	219	9.9	301
20才以上	18	0.8	37	1.7	55
計	100	4.5	256	11.5	356
8-20才未満	159	2.9	498	9.0	657
20才以上	46	0.8	86	1.6	132
計	205	3.7	584	10.5	789
満18-20才未満	63.0	2.9	166.0	9.0	219.0
20才以上	15.3	0.8	28.7	1.6	44.0
計	68.3	3.7	194.7	10.5	263.0
7才未満			172		172
7才以上			49		49
計			221		221

復刊第1号(1954年9月)

不二出版

日本精神薄弱児愛護協会（現在の日本知的障害者福祉協会）は、滝乃川学園・白川学園・桃花塾・藤倉学園・筑波学園・三田谷治療教育院・八幡学園・六方学園など、国や自治体の支援の期待できない困難な時代に、知的障害児施設を創設し活動していった先駆者が集まり、一九三四年に結成された。

その目的は、これまで放置・無視されてきた知的障害児を保護し、適切な教育を保障することであり、知的障害児の研究・調査、施設相互のネットワークづくり、講演会・展覧会開催、教育相談などを規則に掲げた。協会では創立以来、パンフレットを発行し、研究会をおこなったほか、「精神薄弱児保護法」制定を提案するなど各方面への働きかけをおこなってきたが、その活動の一環として機関誌『愛護』を発行した。

本誌『愛護』は一九三六年に創刊され、戦前はわずか三号を出したにとどまる。しかし、それぞれの施設関係者が実務に追われ事業に専念せざるをえない、きびしい状況のなかで何とか手を携え、もつとも対応の遅れた知的障害者への福祉政策を政府・自治体・学識者（少年院など）児童保護施設等々各方面に訴え、実現しようとする熱意が誌面にはあふれる。しかし、戦時下、知的障害者への対策はますます閑却され、

石井亮一（滝乃川学園）や久保寺保久（八幡学園）など協会の中心人物の死去や空襲による施設の破壊、疎開などを経て協会が再興されるのは、戦後一九四九年のことであった。

機関誌である『愛護』が復刊したのは、さらに遅れて一九五四年九月であり、季刊を経て月刊となつて現在まで誌名を変えて刊行されている。『愛護』には、全国各地の施設相互の情報交換や協会の総会・例会の報告、世界中の研究報告や施設状況などの情報だけでなく、現場で障害児とともに生きる職員のぶつかるさまざまな困難とそして展望が語られている。それは「児童」施設では対応できない年齢超過の障害者の問題であったり、優生保護法に則つての優生手術の実際や思春期の性、職業指導、退園後の社会的自立、通園施設、重症障害児対策、職員の定員と勤務形態、家庭/地域と施設との関係、などさまざまな問題である。

近現代の知的障害者福祉の歩みを証言する貴重な資料として、一九六三年五月まで（横組みに変わる前まで）の本誌を、日本知的障害者福祉協会の全面的な協力の下、復刻刊行する。すべての障害児教育研究・障害者問題研究者及び機関に必須の資料として提供する（不二出版）

内容見本

(縮小してあります)

愛護

創刊号

主編 相田良雄
発行所 久保寺保久
編集者 久保寺保久
印刷所 林義順
発行日 昭和六年九月一日

明朗自由の天地を拓け

精神薄弱児保護法の制定は、戦時下の異常な環境下で、同僚十の間の主眼となつて、特許と問題化し、研究の中心となつて、昭和十年十月の協会創立以来、この問題に専念して来た。...

私達の工夫

昭和九年七月女子寮開設されてより、八歳以上の女子は、三月までには、定員五十名を超過して、供送の年令七才から八才までと、供送の年令をなして行つたが、...

復刊第5号(研究工夫特集号・1956年11月)

職業補導特集号

愛護

創刊号(1936年9月)

児童福祉法公布以来、国はその全力を施設の増設に注いで来たが、一二年來、施設内容の整備にその力を注いで来た。...

第三回精神衛生全国大会開かる

昭和三十三年十二月六日東京第一生命ホールで精神衛生問題主催で盛大に開かれた。当日は協会の代表として、...

私のお願

精神薄弱児の増設は、戦時下の異常な環境下で、同僚十の間の主眼となつて、特許と問題化し、研究の中心となつて、昭和十年十月の協会創立以来、この問題に専念して来た。...

『愛護』関連年表

Table with 2 columns: Year (年) and Event (内容). Lists events from 1891 to 2002, including the founding of various institutions and the journal 'Aigo'.

優生手術について

今回千葉の施設で収容児の去勢をしたことが世間問題となつたので、この機会に現行法規について重要な点を述べ参考と供したい。

子どもを知るために

わたくしどもは、子どもを扱い、おたたくことにはなれません。おたたくことは、子どもを虐待する行為であり、法律でも禁じられています。

復刊第3号(職業補導特集号・1956年1月)

復刊第2号(1955年10月)

戦前から知的障害者福祉の 全容を示す資料

津曲裕次

日本精神薄弱児愛護協会の機関誌『愛護』が復刻されることになった。といっても、福祉に関心を持つ人々にとってもなじみのない雑誌かもしれない。実は、今も『さぼーと』と名前を変えて日本知的障害者福祉協会が発行している月刊誌である。また、市販されていないことや、「施設」と言えば、縮小・解体と結びついて、どちらかといえば、古い、否定されるべき存在とみなされがちであるため、市民や学生には関心がないかもしれない。しかし、この協会が、第二次世界大戦前の、公的知的障害児福祉政策のない時代に、施設関係者の努力によって生まれ、自らの手で、機関誌を発行し続けたことを知れば、その内容に興味を抱くであろう。

『愛護』では、日本での知的障害児教育・福祉の歩みの全てがある。そこには、親の願いを受け入れ、知的障害児の教育と養護に心を砕き、現在は、地域との交流に心を砕いている施設福祉の努力と実践が豊富に語られている。

この雑誌は、どんな大きな書店でもまずはお目にかかることはない。それを見るには、福祉系大学の図書館等に行く必要がある。それでも、創立以来の号数を揃えているところはほとんどなかった。それが、このたび不二出版のお陰で、創刊号から見られるようになる。解説者にも蒲生氏という適任者を得た。福祉系大学や資料室はもとより、公立図書館等でも備えて、地域のボランティア、福祉に関心のある人々や一般の読者に提供してもらいたいと切に思う。

(つ magari・ゆうじ 長崎純心大学大学院人間文化研究科教授)



「何をなすべきか」の 原点を提示

北沢清司

障害者自立支援法が、二〇〇六年四月に施行され、一〇月には本格施行される。同法の趣旨からすると三障害で分立して展開されてきた障害者福祉の一元化が図られることとなるが、問われてくることは、それぞれの事業者が提供する支援サービスの内容であろう。障害者福祉に関わる資源量の観点からすると、知的障害関係福祉が最も多く、資源の地域配置も他障害に比較して群を抜いている。その意味からすると、知的障害関係福祉の事業者が、地域で提供する支援サービスの内容次第が、同法が果実を实らせられるかの分岐となる。

知的障害関係福祉の事業者が、「施設」という空間で展開してきた実践は、まさに一九三六年創刊された『愛護』誌を通して相互に研鑽し、新たな実践を創り出してきた。このたび復刻されることとなった一九六三年までの時期は、まさに知的障害関係福祉の創成期といえる。法による裏付けの弱かった戦前期から、一九四七年児童福祉法による「精神薄弱児施設」の位置付け、一九六〇年精神薄弱者福祉法の成立による「精神薄弱者援護施設」の位置付けによる知的障害者福祉の実践の開始までをカバーしている。

まさに創成期の「何を提供すべきか」の原点が、それぞれの文章にあふれているといえる。障害者福祉のパラダイム転換で迫られてくる変革の急流で、事業者は、支援者は「何をなすべきか」を見失うことなく舵を切っていくに際しての原点を提供する『愛護』誌の復刻である。

(きたざわ・きよし 高崎健康福祉大学健康福祉研究科保健福祉学専攻長・教授)

関連図書

編集復刻版 知的・身体 障害者問題資料集成 戦前編 全16巻

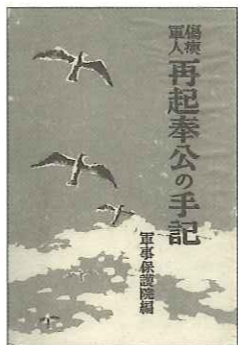
戦前期、「障害者」は国家・宗教・共同体・家族の中でどのように認識され、振り分けられ、保護され、疎外され、放置され、そして生き抜いたか。学習障害児・知的発達障害児・肢体不自由児から傷痍軍人まで——知的・身体レベルの障害に関する、調査報告書・リーフレット・教育啓発文書・施設案内・公文書等、資料群三〇〇余点を復刻。

- A4判・上製・総約6,000ページ
- 揃定価 本体400,000円十税
- 推薦 清水寛・一番ヶ瀬康子・大見川正治・中村満紀男

使命社・東京孤児院・東京育成園 刊(明治32年〜明治45年刊)〔復刻版〕 東京孤児院月報 全3巻・別冊1・付録1

身よりのない子どもたちをただ「収容」するのではなく、ひとりひとりの子どもの人権を中軸に据え、「家庭」として子どもたちを受け入れ育てた東京孤児院・東京育成園。平等と人権、反戦・平和を基調としたその理念は、ようやく表面化してきた児童虐待の問題や子どもの福祉一般について、今もなお大きな示唆を与える。社会福祉のみならず、児童教育・社会思想史研究にとっても第一級の資料である。

- 別冊 解説(丹野喜久子)・総目次・索引
- 付録 東京育成園創立百周年記念(東京育成園) 創立から明治・大正期(分売可)5,000円)
- A4判・B5判・四六判・上製・総1,842ページ
- 揃定価 本体80,000円十税
- 推薦 吉田久一・仲村優一



【知的・身体障害者問題資料集成】所収



【救済】



【優生運動】



【学校保健の近代】

大谷派慈善協会 刊(明治44年〜大正8年刊)〔復刻版〕 救済 全9巻・別冊1

本誌は、真宗大谷派の僧・大草慧実が設立した福祉団体「大谷派慈善協会」の機関誌である。貧困者・失業者・無宿者の救済、刑期終了者の社会復帰事業、被差別部落の改善、禁酒運動ハンセン病患者への対策、そして児童保護事業・知的障害児教育など豊富な資料が掲載されている。これまで近代社会福祉事業といえどキリスト教の活動が主に語られてきたが、仏教者の新たな事業活動の展開については十分に考察されていない。仏教社会福祉の原点として復刻する。

- 別冊 解説(佐賀枝夏文)・総目次・索引
- 菊判・上製・総4,888頁
- 揃定価 本体163,000円十税
- 推薦 長谷川匡俊・吉田久一

池田林儀 主宰(大正15年〜昭和5年刊)〔復刻版〕 優生運動 全9巻・別冊1

本誌は、ジャーナリスト・池田林儀によって一九二〇年代後半に展開された優生運動の機関誌である。それまで一部の医学者や産児調節運動家が論議してきた優生思想を広く民衆レベルにも浸透させることを意図し、スローガンに「よい種子」「よい畑」「よい手入れ」を掲げて日本人をして「世界の第一線に立たしめることを理想」とした。具体的には「結婚の改造」「愛国精神の鼓舞」「保健衛生」「婦人参政」を謳った本誌は、日本の優生思想史研究に必須の資料である。

- 別冊 解説(藤野 豊)・総目次・索引
- A5判・上製・総4,766ページ
- 揃定価 本体154,000円十税
- 推薦 岡田靖雄・荻野美穂・木畑和子・鈴木善次・米本昌平

澤山信一 編著 学校保健の近代

一九世紀末から戦戦までの学校でのトラホーム対策の歴史を子どもと親の側から描写し、国家や地方自治体の側から考察されてきたこれまでの学校保健史の常識を問い直す。さらに雑誌「養護」(一九二八〜三七年)から学校看護婦自身による記録八〇点を選び、トラホーム対策の進展に伴い活発化するその活動の全貌に迫る。

- A5判・上製・232ページ
- 定価 本体2,800円十税

愛護

復刻版
概要

全四巻十別冊

復刻版巻数 原本巻号数

原本発行年月

第1巻	第一巻第一号〜第一巻第四一七号(通号第三号)	一九三六年九月〜一九三七年二月(戦前)
	十(復刊第一号)〜第三〇号	一九五四年九月〜一九六〇年三月
第2巻	第七巻第四号(通号第三号)〜第七巻第二二二号(通号第三九号)	一九六〇年四月〜二月
第3巻	第八巻第一号(通号第四〇号)〜第八巻第二二二号(通号第五二号)	一九六一年一月〜二月
第4巻	第九巻第一号(通号第五二号)〜第一〇巻第四・五号(通号第六六号)	一九六二年一月〜一九六三年五月

●推薦

津曲裕次(長崎純心大学大学院人間文化研究科教授)

北沢清司(高崎健康福祉大学健康福祉研究科保健福祉学専攻長・教授)

●体裁

B5/A5判(第一巻のみB5判)・上製・総一、七〇〇ページ
六九冊を四巻に合本製本

●別冊

解説(蒲生俊宏)・総目次・索引(別冊のみ分売可)本体価格、〇〇〇円十税

ISBN4-8350-5593-4

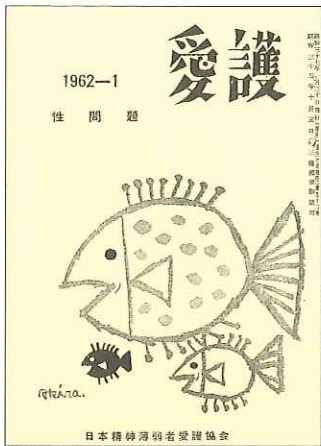
●揃定價

本体六〇、〇〇〇円十税

ISBN4-8350-5588-8

●刊行

二〇〇六年七月



設立総会出席者(滝乃川学園本館前・1934年)

●表示価格はすべて税別。

不二出版

T113・0023
東京都文京区回廊1-2-12
電話03・3812・4433
FAX03・3812・4464
振替001600294084